



<オンタリオ市議会議場>



<Cammack市長、Henry支配人、Alexander警察署長>



<梱包済みの玉ねぎ>

Cammack市長やシテイマネジャーのHenry氏、警察署長のMark Alexander氏、消防署長のAl Higbotham氏とも挨拶をした。人口が1万人あまりの都市ではあるが、かなりコンパクトな行政機関のようだった。警察署には豚箱もがあり、消防署には大型の消防車や救急車が数台あったが、物々しさが無いのは、オレゴン州のそれも田舎町のせいかも知れない。市役所の正面には、姉妹都市提携の記念碑と共に、20周年記念の時の石碑もあった。

働いていたが、ここOntario市でも同じようだ。不法労働者も多いようだし、低賃金で働いているメキシコ人に対する生活保護的な政策も必要だと伺った。今年、狭山を訪問したMs. Mongは中学校のスペイン語の先生だった。日系人が多かったこのOntario市も今後はラテン系の住民が多くなってくると思われる。隣の州のAidahoはアイダホポテトで有名だが、Ontarioは玉ねぎが米国一番らしい。国道や鉄道の要所でもあり、全国へ出荷されている。

② Ontario Produce Company社

ついで、Ontario Produce 社を訪問。この会社はOntario市内の農場から主として玉ねぎを集荷し、梱包の上にアメリカの各地へ出荷する会社である。Komoto 夫妻が経営していたようだが、最近では経営権を手放したようだ。車内の選別装置には多くの労働者が作業していたが、見受けたところ全てがメキシコ人のようだった。玉ねぎの頭の部分をナイフで切り落とす作業に従事していた。カリフォルニア州の農場で多くのメキシコ人が労働者とし

③ Ontario 郊外への見学

Ontario市はOregon州のMalheur郡の中で一番大きな市だが、市内の中心地から暫く走ると、郊外の農場が広がっている。スネーク河が流れる広大な大地は遠くに望む山並みまで全て農場である。平野の真ん中に突き出た山は昔、噴火で出来た小山である。

④ 地ビール工場見学

市内にある地ビール工場へ案内された。地ビールは日本でも各地で生産されている。3種類のビールを試飲したが日本人にはあっさりとした味が良い。折角お土産に頂いた瓶ビールだが、重すぎるのでMatt氏への置き土産にした。

⑤ 関係者の眠る墓地へ

Romio'sレストランでの昼食を終えてからは、多くの関係者が眠る墓地を訪問した。今年には姉妹都市提携40周年記念の年である。一言に40年といっても結構永い。聞くところによると、当時15歳だった、関係者の息子さんが今では55歳のオジサンになっている。この提携に尽力された人たちの多く



<玉ねぎのへた取り加工場>